



2019年度 国際政治 最終試験講評

今回の問題文は下記の通りでした。

〔問題〕

あなた自身が「国際社会に対して抱いているイメージ」について、講義の内容を踏まえて、600字以上1920字以内で説明しなさい。なお解答にさいしては、以下の5つの語句をすべて用いること。

ホップズのイメージ グロチウスのイメージ カント的イメージ 理想主義 現実主義

〔注意事項〕

◇解答は600字以上記すこと。この条件を満たさない答えは採点の対象としない。

◇図を使用する場合は、用紙の点線部分より下に記すこと。

◇解答の分量が合計930字を超えるときは、答案用紙の裏面に続きを書くこと。

◇この問題用紙は持ち帰ること。

1. 採点講評

今回は、講義レジュメの16～17頁と、78頁以降の内容をきちんと記憶・理解していれば、知識の面では問題ないかと思います。むしろ問題なのは、「自分自身の抱いている国際社会に対するイメージ」について、自分自身できちんと把握できているか、またそれを体系的な文章としてまとめられるか、という点でした。しかし、同様の問題を、すでに講義中に課したレポートでも出していたので、講義をまじめに受けていた学生であれば、きちんと答案をしあげることができたようです。全体としての答案の出来も、ほぼ満足のいくものでした。

もうひとつ、採点をしていて気になった点を挙げておきます。それは解答者の多くが、答案の大半を費やして、「ホップズのイメージ」や「理想主義」「現実主義」という、指定された5つのキーワードのそれぞれについて、講義で私がどのように説明したかにつき、きわめて詳細に叙述していたことです。そして出題のメインである(と出題者の私が考えていた)「自分自身は国際社会に対してどのようなイメージを抱いているのか」という点に関しては、あまり詳しく記述してもらえませんでした。

上記の問題文をよく読めば、私がみなさんに尋ねたのは『あなた自身が国際社会に対して抱いているイメージはどのようなものか』であって、『下記の5つの語句について、私が講義でどのように説明したか』ではないということは判ってもらえると思っていましたから、そのところは少しばかり残念でした。「では具体的に、私がどのような答案を期待していたのか」については、下記の解答例を参照してください。

2. 成績分布

①履修登録者全体（講義に一度も出席しなかった者も含む）における成績分布

S : 47.6% A : 9.5% B : 9.5% C : 4.8% X : 0.0% F : 28.6%

②最終試験受験者における成績分布

S : 66.7% A : 13.3% B : 13.3% C : 6.7% X : 0.0%

3. 解答例

次ページ以降を参照してください。ただし、あくまで「解答例」ですので、この通りに書かねばならないわけではありません（みなさんが国際社会に対して抱くイメージはそれぞれです）。なお自身の解答について、個別にコメントがほしいという人がいましたら、私の方までメールで連絡してください。

1. 総論

私自身は現在の国際社会について、ホッブズのイメージとグロチウスのイメージの、中間地点からみてやや後者よりに捉え、また理想主義よりは現実主義的に把握している。21世紀に入り、国際社会の協力的な体制は、前世紀よりも大きく前進した。その一方で、アメリカのトランプ政権に代表されるような「自国中心主義」的な傾向も、依然として残存している。また国際社会に対する現実主義的な認識方法は、21世紀に於いても軍事力が問題解決に不可欠である現実を、よりよく説明するように思える。しかしそれだけですべてが説明できるわけでもないので、理想主義的な側面にも目を向ける必要があると考える。これらについて、以下に詳述したい。

2. グロチウスのイメージの強い世界

「世界戦争の世紀」とも呼ばれた20世紀と較べると、21世紀は、はるかに国際的な協力体制が整備されてきている。国際連合に代表される平和維持機構もそうであるし、WHOやWTOのような、分野別の協力機関もそうである。これらはグロチウスのイメージによく合致している。

とはいえ、21世紀の現在に於いても、国家と国家が激しく抗争する、ホッブズ的なイメージも色濃く残っている。たとえばアメリカでは「自国第一主義」を掲げるトランプ大統領が、多数の国民によって選ばれた。彼が主導する中国との激しい覇権争いや、クリミア半島併合をめぐるロシアのプーチン大統領と他国との対立、またイギリスのEU離脱問題などでも、国際社会の対立的側面がよく顕れている。これらの事実を総合して、私は現在の国際社会について、ホッブズのイメージとグロチウスのイメージの、中間地点からみてやや後者よりに捉える。なおカント的イメージについては、そのような「国家を超越し、世界市民的な連帯をめざす機運」は、先進国のリベラル市民の一部に限定された思想であり、全世界の趨勢にはなっていないと考える。

3. 現実主義的な国際認識

21世紀になっても、国家や軍事力の重要性はあまり低下しておら

学籍番号	氏名	平常点	試験点	裁量点	総点

ず、この点からみて、私は国際社会を現実主義的に捉えるべきと考
える。たとえば北朝鮮による核兵器の開発問題をみても、北朝
鮮が交渉のテーブルについたのは、アメリカの強力な軍事力があっ
てこそだった。日本は北朝鮮と、拉致問題を懸案として抱えている
が、日本の軍事力がさほど脅威でないためか、北朝鮮はまったく交
渉に応じようとしない。してみると、21世紀においても、軍事力の
重要性は依然として高いと考えられる。

しかし、それだけですべてが説明できるわけでもない。現実主義
は国家の合理性を主張するが、日本のPKO政策を考えても、決し
て合理的に海外派遣が決められているわけではない。また現実主義
は、経済よりも政治・軍事の重要性を強調するが、日本とアメリカ
・中国の関係は、経済により大きく左右されている。これらを考え
ると、現実主義的にだけ世界を捉えるのは不適當で、理想主義的要
素も考慮に入れるのが正しいように思える。

以上